



2020年6月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年10月31日

上場会社名 ウェルネット株式会社
 コード番号 2428 URL <http://www.well-net.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 宮澤 一洋
 (氏名) 内山 正明
 TEL 03-3580-0199

(百万円未満切捨て)

1. 2020年6月期第1四半期の業績(2019年7月1日～2019年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年6月期第1四半期	2,456	0.7	228	60.5	229	54.2	159	54.9
2019年6月期第1四半期	2,473	3.1	142	34.5	149	35.1	102	35.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年6月期第1四半期	8.48	8.45
2019年6月期第1四半期	5.51	5.48

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年6月期第1四半期	22,580	6,666	29.2	350.83
2019年6月期	18,960	7,443	38.8	392.04

(参考)自己資本 2020年6月期第1四半期 6,588百万円 2019年6月期 7,353百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年6月期		0.00		50.00	50.00
2020年6月期					
2020年6月期(予想)		0.00			

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年6月期の配当性向は50%とする予定ですが、業績予想の合理的な予測ができないため、配当金額は現時点では未定であります。

3. 2020年6月期の業績予想(2019年7月1日～2020年6月30日)

2020年6月期の業績につきましては、現時点では業績に影響を与える未確定な要素が多いため、業績予想を数値で示すことが困難な状況です。業績予想については、合理的に予測可能となった時点で公表します。

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)通期									

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年6月期1Q	19,400,000 株	2019年6月期	19,400,000 株
期末自己株式数	2020年6月期1Q	619,540 株	2019年6月期	643,048 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年6月期1Q	18,779,100 株	2019年6月期1Q	18,659,277 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2020年6月期の業績につきましては、現時点では業績に影響を与える未確定な要素が多いため、業績予想を数値で示すことが困難な状況です。業績予想については、合理的に予測可能となった時点で公表します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(表示方法の変更)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①経営成績に関する分析

昨今対面スマホ決済においては大きな動きがありますが、当社が事業ドメインとする非対面決済市場においても決済のキャッシュレス化等の動きが今後も活発化するものと予測されます。また、様々なサービスがクラウド化される流れも加速しつつあります。このような情勢のもと、当社は2016年8月新たなビジネスチャンスに積極果敢にチャレンジする「中期経営5か年計画（2016年7月～2021年6月）」を発表、重点施策を「電子マネー化時代への対応」「バスIT化プロジェクトの推進」「事業者サイドに立った消費者向けサービス支援」を推進する活動をしてまいりました。

中期計画の4年目にあたる当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高2,456百万円（前年同期比0.7%減）、営業利益228百万円（前年同期比60.5%増）、経常利益は229百万円（前年同期比54.2%増）、当期純利益は159百万円（前年同期比54.9%増）となりました。

②当社を取り巻く環境変化と対応戦略＝新中期経営5か年計画（2016年7月～2021年6月）

当社が事業ドメインとする非対面決済市場については今後も一定の伸長を見込んでおり、さらに当新中期経営5か年計画期間中、ペーパーレス化、キャッシュレス化に対応することで、最終年度の経常利益目標を50億円とした成長戦略を実行しております。

A. ウェルネットの“スマホ決済”「支払秘書」の現況

今後拡大が予想されるキャッシュレス社会に対応できるスマホ決済サービス「支払秘書」をファーストクライアント：関西電力として2017年8月3日にサービスイン。その後九州電力、北海道電力（当社単独採用）、東北電力、四国電力（当社単独採用）、北陸電力（当社単独採用）がサービスを開始、提携銀行も三井住友銀行、ゆうちょ銀行など31行となり、さらに拡大予定です。導入事業者も電力に続き、バス、鉄道、航空など生活インフラ事業者の他、当社“マルチペイメントサービス”を導入済事業者にも拡大しています。

B. バスIT化プロジェクト“バスもり！”シリーズを積極推進

2016年8月に投入したスマホアプリ“バスもり！”の取扱路線は順調に増加、スマホ一回券、スマホ回数券、スマホ定期券、スマホフリーパス等取り扱う券種を拡大、さらにアリペイ連携、タブレット型車載端末などサービスバリエーション追加効果もあり、312路線に導入されました。さらに複数の新サービスも開発中で、今後“バスもり！”をトータル的なクラウドサービスに発展させてまいります。

「支払秘書」「バスもり！」ともに、提携パートナーを拡大し、利用者数・決済数増加を図っていく予定です。

C. システム安定運用

数年にわたる安定運用投資・体制強化により、重大なシステム障害はこの2年間発生しておりません。

また、札幌事業所においてシステム開発・運用を担う優秀なIT人材を確保するため、2019年4月に札幌市中央区大通東9丁目に約1,700坪の土地を購入、2021年完成を目指しております。

D. 未来に向けた研究開発

“IoT”“フィンテック”等の大きな波をとらえるため必要に応じて知見・技術を持つ機関などと連携し研究開発を的確に進めます。また、決済周辺のプラットフォームを開発するベンチャー企業向けの投資も必要に応じて検討してまいります。

E. ガバナンス

①ウェルネットアレー

当社は会社の存在意義と社員の行動指針を“ウェルネットアレー”として定め、実効性あるガバナンスを目指しております。商材が変われども当社の根幹をなす行動哲学として社員を教育しております。

（ウェルネットアレー）

“あったら便利なくみ”を作り続けることで社会に貢献します
その「なくみ」を広く世の中に提案・普及させます
そこから得た「利益」を社員、株主、次への投資として配分します

(ウェルネット社員アレーター)
 既成概念にとらわれず発想します
 まず自分の頭で考え、全体最適な提案をします
 議論はオープンに行い「決めるべき人」が決め、組織として実行します
 「誰が」「何を」「いつまでに」を常に明確にします
 実行結果を検証し、さらに改善、を繰り返します
 報告は正直、正確、迅速に行います
 提供役務と対価を文書化して合意後に取引を行います
 清廉を旨とし、接待、贈り物を受けません

②社外取締役が過半数の取締役会

積極果敢経営における意思決定の透明性を高めるため、またコーポレートガバナンスコードを意識し、当社は2017年9月「監査等委員会設置会社」に移行いたしました。取締役会メンバーは社内取締役2名に対し社外取締役3名、過半数が社外取締役の構成で、毎回全員参加のもと活発な議論を行っております。

F. 地域貢献活動

地域社会への貢献として、北海道の高等工業専門学校に通う学生を対象として設立した“ウェルネット奨学金”により、多くの学生を支援しております。支援を受けた学生さんからは多数の感謝のお手紙をいただき、社員のモチベーション向上にもつながっております。この活動は今後も継続してまいります。

また、札幌事業所に2017年4月に開設した企業内保育園「ウェルネットもりの保育園」では、当社社員のお子さん以外にも、ウェルネットの地域貢献として近隣地域のお子様も受け入れております。

G. 収益予想と株主還元

積極果敢な投資を行うことによる収益への影響予測が困難であるため収益予想は開示しておりません。一方で株主様への配慮として、配当性向については50%以上といたします。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期累計期間末における総資産は22,580百万円となりました。流動資産は18,756百万円であり主な内訳は現金及び預金16,433百万円であります。現金及び預金には、回収代行業務に係る収納代行預り金が13,719百万円含まれておりますが、これは翌月の所定期日には事業者に送金されるものであり一時的に当社が保管するものであります。固定資産は3,824百万円であり、内訳は有形固定資産2,033百万円、無形固定資産1,051百万円、投資その他の資産738百万円であります。

(参考) 現金及び預金の純額 (回収代行業務に関する預り金を相殺した、正味の現預金残高)

	前事業年度末 (2019年6月30日)	当第1四半期末 (2019年9月30日)
(A) 現金及び預金 (千円)	12,915,351	16,433,503
(B) 収納代行預り金 (千円)	9,393,868	13,719,579
(A)-(B) 現金及び預金純額 (千円)	3,521,483	2,713,924

一方、負債合計は15,914百万円となりました。主な内訳は収納代行預り金13,719百万円であります。純資産合計は6,666百万円となりました。主な内訳は株主資本6,588百万円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年6月期の業績につきましては、現時点では業績に影響を与える未確定な要素が多いため、予想開示が合理的に予測可能となった時点で公表します。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,915,351	16,433,503
売掛金	560,714	613,342
商品	2,133	2,134
仕掛品	8,574	16,049
貯蔵品	1,438	996
その他	1,650,226	1,690,175
流動資産合計	15,138,438	18,756,200
固定資産		
有形固定資産	2,027,734	2,033,770
無形固定資産	1,080,065	1,051,951
投資その他の資産	714,441	738,540
固定資産合計	3,822,241	3,824,262
資産合計	18,960,679	22,580,463
負債の部		
流動負債		
買掛金	476,794	469,693
収納代行預り金	9,393,868	13,719,579
未払法人税等	71,416	83,064
賞与引当金	-	37,097
ポイント引当金	274	248
その他	1,383,065	1,410,599
流動負債合計	11,325,418	15,720,282
固定負債		
株式給付引当金	48,240	48,778
資産除去債務	7,154	-
長期未払金	119,007	119,007
その他	17,276	26,338
固定負債合計	191,678	194,123
負債合計	11,517,096	15,914,405
純資産の部		
株主資本		
資本金	667,782	667,782
資本剰余金	3,509,216	3,509,216
利益剰余金	4,017,854	3,225,734
自己株式	△841,337	△813,879
株主資本合計	7,353,515	6,588,853
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△98	△185
評価・換算差額等合計	△98	△185
新株予約権	90,165	77,389
純資産合計	7,443,582	6,666,057
負債純資産合計	18,960,679	22,580,463

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
売上高	2,473,369	2,456,810
売上原価	2,045,012	1,987,681
売上総利益	428,357	469,128
販売費及び一般管理費	286,114	240,886
営業利益	142,242	228,241
営業外収益		
受取利息	1,219	464
投資事業組合運用益	3,358	—
未払配当金除斥益	—	1,237
その他	2,348	1,545
営業外収益合計	6,926	3,247
営業外費用		
投資事業組合運用損	—	1,506
営業外費用合計	—	1,506
経常利益	149,169	229,983
特別利益		
新株予約権戻入益	39	1,771
特別利益合計	39	1,771
税引前四半期純利益	149,208	231,754
法人税、住民税及び事業税	58,426	73,812
法人税等調整額	△11,968	△1,218
法人税等合計	46,457	72,593
四半期純利益	102,750	159,161

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「新株予約権戻入益」は、金額的重要性が増したため当事業年度より区分掲記し、特別利益の「新株予約権戻入益」として表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、営業外収益の「その他」に表示していた2,387千円は「その他」2,348千円、特別利益の「新株予約権戻入益」39千円として、それぞれ組替えております。